

留学生就職促進プログラム 中間評価所見

大学名：金沢大学

○「留学生就職促進プログラム委員会」における所見

1. 全体の進捗状況、取組と就職率向上の見通し

○概ね計画通りの取組である。

当初目標として掲げた国内企業等就職者の割合には届かなかったものの、きめ細かな日本語教育、キャリア教育、インターシップに加え、企業側への支援・啓発など、多岐にわたる教育プログラムやマッチング支援の取組は高く評価できる。

今後、令和3年度に目標の就職率が達成できるか未知数であることから、これら取組を通じて、国内企業等就職者の割合を高めてもらいたい。

2. プログラムの内容の進捗状況

○概ね計画通りの取組である。

計画を上回る学生がビジネス日本語教育を受講した点や、日本での就職を考える留学生に向けた日本企業の文化・慣行を理解する「日本企業の組織体制」「ビジネス慣行」等の講義が就職活動の質的向上に繋がった一因と推察される。また、外国人材の受入れ経験の少ない企業に対するセミナー開催、個別企業への処遇設計や在留資格申請の手続き、職場環境の配慮などについての相談・支援は、企業側にも有益な取組であり、留学生の国内就職に向けた日本企業の理解が進むプログラム設計となっており、評価できる。

3. 実施体制の構築、活動状況

○概ね計画通りの取組である。

委託期間終了後の自立的な継続に向けた仕組み・体制について、コンソーシアムにおいて、資金繰りの計画をはじめ検討が進められること期待される。

4. 他大学が参考にできる事項等

○日本人学生と留学生が協働で参加するインターシップの実施体制は、外国人材の受入れ経験の少ない企業にとっても受入れに係る負担の軽減に資する。

○金沢大学と信州大学が連携して取り組み、双方の留学生の往来による相乗効果は、単一大学の実践よりも効果的なモデルとなり得る。